

# 市内では火災が多発しています



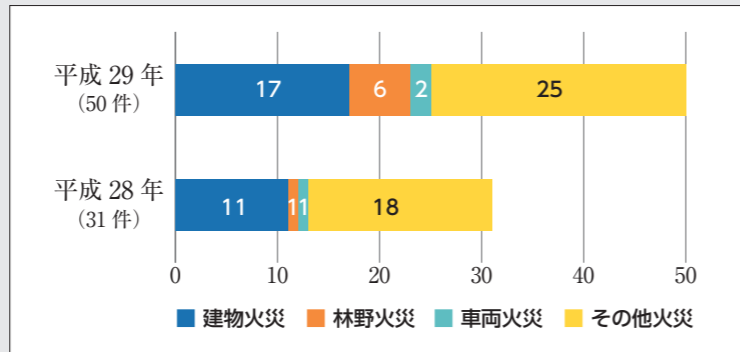
今年は前年と比べ、火災が多く発生しています。  
 1月からの火災件数は、9月1日現在で50件となっており、昨年1年間で発生した火災件数(45件)をすでに超えています。  
 火災の内訳は、建物火災17件、林野火災6件、車両火災2件、その他火災25件となっています。  
 火災で亡くなった方は4人で、そのうちの3人は、枯草焼きが原因の火災などで衣服に火が燃え移るなどして亡くなっています。  
 火災はちょっとした不注意から発生し、尊い命や財産を一瞬にして奪ってしまいます。各家庭で火災予防対策を徹底して、まずは火災を出さないよう、くれぐれも火の用心に努めてください。また、たき火などを行う際は、必ず消防署へ届け出てください。

## もし衣服に火が付いたら



着衣への着火は、枯草の焼却中やガスコンロでの調理中、暖房器具に近付き過ぎるなど、さまざまな場面で発生する恐れがあります。

## 火災件数内訳と前年同期比較(9月1日現在)



前年比で、建物火災が+6件、林野火災が+5件、その他火災が+7件となっています。

# コンロからの火災に注意

火災の多くは  
 ちょっとした気の緩みから



【編集】= 薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

全国各地で大規模火災が発生しています。

8月、東京都築地場外市場で7棟の建物が全焼する火災が発生したというニュースは、記憶に新しいところです。出火原因は、火元であるラーメン店の厨房で、コンロから近くの壁に熱が伝わってこもり、突然発火する「伝導過熱\*」だったとみられています。昨年末に発生した糸魚川の大規模火災の原因も、飲食店における鍋の空だきでした。

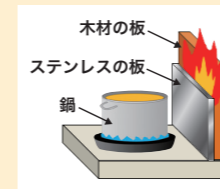


新潟県糸魚川市 大規模火災 (平成28年12月22日発生)

本市でも最近、コンロに鍋をかけたままその場を離れ、火災になった事案が発生しました。幸い、早期発見により大事には至りませんでした。住宅密集地であり、一歩間違えると、甚大な被害をもたらした可能性があります。飲食店の厨房に限らず、各家庭の台所においても火災発生の危険は多く潜んでいます。コンロの消し忘れや鍋をかけたままその場を離れるといった「ちょっとした気の緩み」が大きな火災事故を引き起こします。十分気を付けましょう。

## ※伝導過熱とは

コンロなどの熱がステンレスの板を通して、壁の内側にある木材などに伝わり、炭化した木材が突然発火することです。

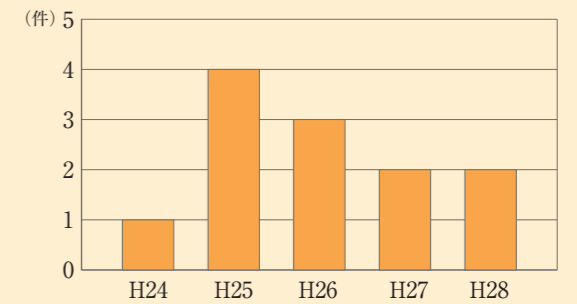


伝導過熱のイメージ

## 伝導過熱を防ぐには...

金属と木材の間に「ケイカル板」や「石膏ボード」といった不燃材料を使用したり、ガスコンロを壁から離したりするなどの対策を取りましょう。

## 市内の過去5年間のコンロ火災発生状況



コンロが原因による火災が毎年発生しています。

# 消防フェスタ開催

今年もやります「一緒に!きて!みて!たいけん!!」

日時: 11月12日(日)  
 9時~12時  
 場所: 中央消防署(中郷町)

## はしご 梯子車・救急車体験搭乗 雨天中止

梯子車搭乗時間  
 9時・10時・11時から3回実施(各45分)  
 ※梯子車体験搭乗は整理券を配布します。

## 消防車見学

レスキュー・放水体験コーナー  
 ロープを渡ってみよう!

## ロッククライミングに挑戦 雨天中止

## ペーパークラフト配布

## 消防団コーナー・ハンドベル演奏

## じゃんけん大会



【問合先: 中央消防署 ☎22-0143】

# 住宅用火災警報器 を点検しましょう!

住宅用火災警報器は、古くなるとセンサーなどの寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあります。種類に応じてボタンを押す、またはひもを引いて作動確認をしましょう。



鳴ったら正常です!

## 音が鳴らない場合は?

電池がきちんとセットされているか確認してください。それでも鳴らない場合は「電池切れ」か「本体の故障」を疑ってください。

## 10年経ったら取り換えましょう!

住宅用火災警報器本体は、おおむね10年を経過したら交換が必要となります。本体に記入された「設置年月」、または「製造年」を確認してください。



【問合先: 予防課 ☎22-0135】

# 住宅防火 いのちを守る 7つのポイント

## 3つの習慣

- 寝たばこは、絶対にやめましょう。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用しましょう。
- ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消しましょう。

## 4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置しましょう。
- 寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用しましょう。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置しましょう。
- お年寄りや身体の不自由な方を守るために、隣近所の協力体制をつくりましょう。

